



ふれあい通信

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



第一七八回史跡ウオーク チーム華

『北の玄武・船岡山周辺（紫野）を歩く』

平安京の玄武に擬され、造営の基準点にされたといわれている船岡山の周辺地域は、紫野（むらさきの）と呼ばれ、「京の七野」の一つに数えられています。平安時代の歴史書には、遷都の翌年、桓武天皇が遊獵したこと、歌詠も行われました。加茂社齋王の御所である齋院も置かれ、疫病を鎮める御霊会も執り行われました。一〇〇一（長保三）年には今宮神社が創建され、鎌倉時代末期には大徳寺が建立されました。今年最後になる今回の史跡ウオークは、船岡山を中心に紫野周辺の史跡を訪ねます。

●日時 一二月一九日（日）受付九時～九時半
●集合 下柏野児童公園：市バス「乾隆校前」で下車し、寺之内通を西に五～六分ほど進むと公園が見えます。
●コース 千本閻魔堂～上品蓮台寺～近衛天皇火葬塚～後冷泉天皇火葬塚～大徳寺孤蓬庵～今宮神社～郁芳門院火葬塚～船岡山公園～建勲神社～常磐井跡～雲林院（解散）
会員の皆様へ
チーム華の会員は八時に、その他会員は八時半に集合お願いします。

船岡山の磨崖仏

史跡船岡山は平安京造営の際に北の基点とされたほか、平安貴族の祭祀や遊宴がたびたびなされた場所でもありました。また西麓一帯の蓮台野は、東山の鳥辺野、奥嵯峨の化野と並んで京都三大風葬地のひとつでした。この辺りには、近衛天皇、後冷泉天皇、郁芳門院の火葬塚が残っており、葬送地だったころの面影を残しています。

それを反映してか、船岡山の北西中腹一带には石仏や五輪塔がひっそりと祀られています。その中のひととき大きな岩に、弘法大師爪彫り不動と呼ばれる磨崖仏が彫られています。岩肌がひどく摩滅して像容ははっきりわからないので、言われてみないとそのまま通り過ぎてしまいそうですが、よく見ると仏像らしきお姿が浮かび上がってきます。長い間不動明王と思われる

て信仰されてきました。実際は不動明王ではなく、蓮華座に座る定印を結んだ阿弥陀仏で、室町時代前後の作と考えられています。



船岡城址の堀と土塁跡

チーム華 富永 正治

船岡山は応仁・文明の乱（一四六七～一四七七）と永正八年（一五一一）の二度にわたって戦場になりました。前者では西軍の大内政弘らが拠点となる船岡山城を築きましたが、応仁二年（一四六八）に東軍の細川澄元らに三方から攻め落とされました。後者では細川澄元らが陣取り、丹波から入京した足利義尹、細川高国らの軍を迎え撃つも、敗れて逃亡しています。これら応仁、永正の戦跡として船岡山の西側中腹の公園横に碑が建てられています。

この石碑の上あたりから岡の西側を取り巻くように三百mにわたって土塁と堀がかなり明瞭に残っていて、山頂の本丸跡と言われる平坦地を含め、曲輪跡と思われる平坦地も随所に見ることができます。

山城跡は京都市の周りの山に数多く残っていますが、船岡山のように身近に五百年も前の城跡が見られるところはありません。その意味で貴重な遺跡と言えます。





清閑寺と小督局

チーム彩 湖城 祥夫

今年の六月、初めて東山の清閑寺にお参りしました。清閑寺は、平安中期に第六十六代・一条天皇の勅願寺となり、盛時には清水寺と並ぶほどの大寺だったそうですが、今はひっそりと静かなお寺です。

このお寺は、平安末期の第八十代・高倉天皇（後白河天皇の皇子）と、小督局（ごごうのつぼね）ゆかりのお寺でもあります。

高倉天皇の中宮（皇后に相当）が、平清盛の娘・徳子（建礼門院）であることは有名ですが、小督局が高倉天皇にお仕えすると、小督局は天皇のご寵愛を一身に集めました。

これに権力者・清盛が激怒。高倉天皇との間に、範子内親王が生まれると、小督局は宮中を追われ、清閑寺で出家させられました。

皇子の第八十一代・安徳天皇（ご生母は中宮徳子）に譲位された高倉上皇は、翌年、御年二十一歳（満十九歳）で崩御されました。

清閑寺の駒札（説明書き）によりますと、高倉上皇は「私が亡くなったら小督局のいる清閑寺に葬るよう」と遺詔（ご遺言）され、境内に御陵が定められたそうです。

時代は下って幕末になると、清水寺成就院の住職で、「勤王僧」といわれた月照と、薩摩の西郷隆盛が、この寺にあった茶室「郭公亭」で密かに会談しました。

清閑寺から、今でもほとんど人通りのない山中の道を七、八分も歩くと清水寺に到着します。清水寺からほど近く、しかも目立たないこの寺の茶室は、密談には格好の場所だったのでしよう。

京の佐久間象山

チーム雅 島田 宗人

象山は、元治元年（一八六四）三月幕命により京にのぼりました。この時期の京は、前年八月の政変で追放された「破約（安政の通商条約）攘夷」を唱える長州藩と公家が、勢いを回復すべく画策していました。幕府側は、京都守護に松平容保を任じて、配下に新選組を置き治安を担わせます。

将軍後見職一橋慶喜の意は、象山の開国進取策を以て、攘夷派公家の説得を行い、公武合体で海陸兵備の改善を成すことにありました。上洛した象山は、家茂に拝謁して、中川宮と山階宮を数次にわたり訪れ、公武合体の推進と朝廷内に開国論を理解させる策を展開します。

同年六月池田屋で京の攪乱を謀っていた尊攘派の面々が新選組に討たれると、長州藩では挙兵論が沸き上がり、六月下旬に伏見、山崎、嵯峨に布陣します。象山は、禁裏に迫る長州勢から天皇を守るべく彦根への動座を献言します。尊攘派はこれを知ると、象山を国賊と目します。

七月十一日、三条木屋町の自宅煙雨楼に帰着する手前で、肥後藩土河上彦斎他の刺客団によって命を落としました。長州藩が御所を襲撃する禁門の変が起こるのは、その一週間後でした。

象山の外国に対する考え方は、「夷の術を以て夷を制する」にあります。日本が国力をつけ、技術を得るには、外国から文明を取入れることが必要であるとしていました。そのための国体は公武合体を是としています。著書『省魯録（せいけんろく）』で、「四十以降は乃ち五世界に繋がりあるを知る」と述べています。自分の考えは世界に繋がるものであるという象山の気概と使命感があふれています。

私の横顔

（会員、賛助会員紹介）

▼名前 前田 信行

▼出身地 京都生まれの京都育ちですが、仕事では、富山・金沢・野洲・出雲・岡山・盛岡と色々な土地で大半を過ごしました。

▼歴史上の好きな、または嫌いな人物、史跡と、その理由 偏った歴史小説フリークなので笑、高杉晋作・坂本龍馬・黒田官兵衛などの幕末と戦国の人物と史跡が好きです。

若い時は関西人として家康が嫌いでしたが、昨今は家康ゆかりの城巡りなどをして知識を深め理解しようとするようになりました笑。

▼趣味（特技） 阪神ファン。サッカー・ラグビー観戦。読書。映画鑑賞。クラシック音楽鑑賞。トレッキング。旅行（国内外）。

今後、時間が出来れば、楽器演奏も思案中です（元吹奏楽部。但、楽譜は読めません笑）

お知らせ

★第一七九回ウォーク 一月二三日（日）

旧鞍馬街道を歩きます チーム雅

叡山電鉄「京都精華大前駅」から雀塚の更雀寺や深泥池などを訪ねます

★第一八〇回ウォーク 二月二〇日（日）

山科から旧渋谷街道を経て京・馬町へ

チーム彩 山科駅前から古くからの古道「渋谷街道」沿いの古刹を訪ね歩きます

★冬季ガイド研修会 研修企画 今井 満

知識を深めたい会員・賛助会員の研修です。

●一二月二五日（土）ひとまち交流館第二会議室午前九時半から一時 講師 富永正治

●一月三〇日（日）ひとまち交流館 第三会議室午後一時半から三時 講師 奥西不二

※研修内容は、後日に案内します。

「東九条界わい、歴史を感じるところ」

京都の地味な話 チーム彩 奥西 不二

- * 点線で囲んだところは撰関家のひとつ九条家の本拠地で、九条に屋敷をかまえたので藤原姓から九条姓に変わりました。
- * 九条家の別称は陶化殿で、東京に転居するまで九条に別邸があり、維新後に小学校に転用され後に陶化小学校になりました。
- * 竹田街道には路面電車走っていました。稲荷大社や中書島へ行くには利便がよかったです。
- * 牛車は九条通りを東進し、広い河原を横切って仮橋を渡ると紀伊郡です。法性寺街道を南進して伏見から宇治へ向かいました。



この地域はとくに観光地でもなく、人々の暮らしが日々繰り返し返されているだけの場所です。最近ではホテルの新築ラッシュで少し景観が変わってきましたが、平安末期から院政期には公家や武家の屋敷が点在していました。その名残を感じさせるところを紹介します。

①平盛国邸跡、平清盛終焉・高倉天皇誕生地の場所を示す看板

盛国邸は八条通りの東端にあり、梅小路公園あたりにあった清盛邸(西八条邸)まで平家一門の屋敷が点在していました。



* 盛国は清盛の側近で、側近の側近で支えて政権を影で支えていました。

②新宮神社

九条家の祖、兼実の屋敷が九条河原町の北にあり邸内に大きな森がありました。当時盛んになっていった熊野信仰にあやかかって勧請しました。その後九条家は撤退しましたが、稲荷春日、八幡の神々を合祀して地域の守護神社となりました。現在は吉祥院天満宮が祭祀を行っています。



* 九条河原町西南角から一筋目にある石碑、この路地の奥にあります。

③宇賀神社

藤原氏の祖、鎌足のゆかりのところですが、この地を訪れ、金爾を埋めたときとされています。京都でも平安京が出来る以前といふこととかなり古い神社といえますが、創建の履歴などは不明です。もとは地元の地主神社として地域の崇敬を集めていたといえます。



* 竹田街道の札辻にある石碑。明治・大正期には大変賑わった。



④長谷川家住宅

長谷川家はよくご存じの方も多いと思います。築後約二百八十年を迎え「歴史・文化・交流の家」として文化活動の拠点になっています。京町家ではありませんが江戸時代の豪農の姿を残しています。

⑤城興寺

洛陽三十三所霊場で真言宗のお寺です。平安時代は藤原氏の伝領地でした。後に平家に奪われましたが平家滅亡後は延暦寺の管理下におかれ、応仁の乱で焼失し真言宗に改宗し再建された。境内の薬院社は施薬院の名残で、長く地元の東九条の人々に崇敬されています。

⑥旧九条湯

最後に紹介するのは十年前まで銭湯だった旧九条湯です。将来に残したいところで銭湯の営業はしていませんがレストランとして活用されています。浴槽の中で食べる「バター醤油チキンカレー」は絶品です。

面白発見

太秦にあった千石船

チーム雅 秋房 麻理

右京区役所の近くに千石荘公園という児童公園があります。かつてここには公園の名前の由来ともなった千石船「長栄丸」が置かれていました。若狭と北海道間を定期運行していた長栄丸は、その役目を終え転売されて、大正一四年に太秦の地元の実業家篠田幸二郎邸内の庭園に移されました。翌年には近くの「天塚古墳」にスウェーデンの皇太子夫妻が見学に来られた際にここにも立ち寄り千石船をご覧になったそうです。

その後昭和一四年に庭園と千石船は京都市に寄付され、庭園は児童公園となり千石船は一般に公開されました。千石船は昭和二五年の台風で壊れ、撤去されましたが、その当時の写真と由緒の碑が残されています。「清水庵の主人」篠田幸二郎は、碑文の中でも京都のような四方が山の地では千石船のような船を見ることができないだろうから、文化として後世に船を伝えたいと言っています。



逢坂の関から山科奈良街道へ（感想）

チーム葵 古谷 正弘

逢坂の関は三関の一つであるだけでなく、坊主めぐり最大の悪役蟬丸のほか、清少納言や醍醐天皇の叔父さんにまで歌に詠まれるくらい注目度の高い関所でした。また東海道はたくさん荷物を積んだ牛車が車道を行きかい、大津絵や縫い針、走井餅が名物となるほど経済で潤う土地でもありました。

今回のウォークは、そうした歴史を思い起こさせるのに十分な材料が揃ったコースだったと思います。天気もまあまあ、（唯一、事故が最大の不幸ではあるのですが）皆さん楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

今回の下見・本番で何度か歩いた中で、私が印象に残った場所を紹介します。左の写真です。

山科街道に沿って、右側（西側）にあります。大きな燈籠が目立ちますが、旧道標があり、変わった形の燈籠、隠れキリシタンの燈籠があります。最初何かの史跡かと思いましたが、主人の単なる趣味のようです。他にもいろいろな物を自宅前に置いてある家があり、この界隈の豊かさ、余裕を感じました。



平城京跡と西大寺の研修

企画研修 今井 満

ススキの揺れる平城宮跡から西大寺を専任ガイド島田宗人の案内で、会員・賛助会員の総勢一八名が歩きました。

第一次大極院をバックに集合写真に納まり、藤原京から遷都した訳に領き、紅葉の鮮やかな東院庭園から朱雀門へ大路が延々と四キロ余に柳の街路樹が続く謂れや、長屋王木簡にある国や保存活動の歴史を学びました。

最後は奈良の人もあり知らないという西大寺奥の院にある観尊の五輪塔に詣でて大きさに驚きつつ近鉄西大寺駅で解散しました。

安全第一

先月の史跡ウォークで参加しておられた方が転倒負傷し、救急車のお世話になる事故が起きました。現場は庭園内の足場が悪い散策路ではありませんでしたがこれも高齢や体の不自由の方も安心して参加でき、楽しい思い出を持ってお帰り頂けるよう会員一同更に安全に気を引き締めていきましよう。

なお、事故後は、会員の自家用車で送迎、保険適用の問い合わせなど迅速丁寧な対応を取らせていただきました。

